



INDEX

アフリカは私たちに呼びかけ続ける... 1	シオンのために、
私は黙らない..... 3	総本部の予定..... 3
聖フランシスコ・ソラノ、	兄弟であり宣教師..... 4
総長、	「アフリカの聖母」宣教地区訪問..... 4
兄弟マッシモの視点	2026年6月..... 5
ジャカルタで第6回アジア・オセアニア	地域の JPIC会合が開幕..... 6
2026年アジア・インターフランシスカン	宣教コースが開講、セブ..... 8
奉仕職の任期終了にあたり、	兄弟Bill Shortへの感謝..... 9
エジプトの聖家族管区	アンダー10の会合..... 9
ポーランドにおける複数管区の	合同養成..... 10
マダガスカルの在世フランシスカン	(OFS) 全国選挙総会..... 12
フランシスカン新刊..... 12	

アフリカは私たちに呼びかけ続ける

総長、
中央アフリカ共和国とカメルーンの
共同体を訪問

総長の兄弟Massimo Fusarelliは、2026年6月7～15日にかけて、アフリカ担当の総理事の兄弟Siphelele Gwanisheniおよびスラブ諸管区協議会担当の総理事の兄弟Konrad Cholewaとともに、中央アフリカ共和国とカメルーンにある本会の2つの若い拠点を訪問した。

中央アフリカ共和国

中央アフリカ共和国の首都バンギには、「諸天使の聖マリア宣教地区」の本部が置かれ、志願者のための養成の家も設置されている。同国における兄弟たちの活動は、1991年のポーランドの聖母被昇天管区の兄弟たちの到着以降、より組織的なたちで始まった。現在、この宣教地区は、コンゴ民主共和国にあるアフリカの聖ベネディクト管区に属している。

荘厳誓願宣立者は12名、有期誓願者は7名、志願者は6名いて、少なくとも17名の入会希望者が養成課程を開始するための準備を進めている。兄弟たちは、首都周辺の4つの共同体に住み、きわめて貧しく、道路網も



整備されておらず、反政府勢力の暴力にもさらされているこの国で、とくに司牧活動や社会福祉事業に従事しながら働いている。

総長および同伴する兄弟たちは、宣教地区の総会の日に、すべての荘厳誓願宣立者たちと会い、宣教地区の現状と将来の見通しについて話し合うことができた。会全体および会のアフリカにおける活動とより緊密に歩調を合わせていくことこそが、この小さな宣教拠点の望みである。志願者たちとの出会いでは、今日私たちの生活様式に惹かれるアフリカの若者たちの鼓動を肌で感じる事ができた。総長はまた、一人の兄弟の有期誓願の更新を受けた。バンギ大司教のDieudonné枢機卿との会見は、兄弟たちがしっかりと溶け込んでいるこの国の社会や地域教会という地平を広げるものだった。

代表団は、長い車の旅の末、ブアルへと向かった。そこには65年前からクララ会修道院が存在していて、観想生活が大いに必要とされているこの地において、そのささやかなしるしとなっている。男性の召命は少ないけれども、女性の召命はかなりまれである。それでも姉妹たちは、揺るぎない希望を抱きつつ、新たな協力を模索する。中央アフリカ共和国にあるこの小さな宣教地区は、成長を続け

ている。そして、宣教師による活動から地域の兄弟たちの活動へと移行する過程の美しさのすべてを、その苦労とともに感じさせてくれる。そこでは、フランシスコ会のカリスマを新たな文化に根づかせるとともに、社会や地域教会との関係を発展させていくことが求められている。預言的な活動と交わりを推進していくためには、細心の注意を払う必要がある。

カメルーン

カメルーンでは、ポーランドのクラクフの諸天使の聖マリア管区の宣教師たちが、2013年から活動している。修道院は、同管区に属している。一行はヤウンデに到着した後、車でアボン・ムバンへと向かった。そこには小さな共同体がある。共同体には、3名の荘厳誓願宣立者、2名の有期誓願者、志願期を準備する2名の入会希望者が住んでいる。このほかに、有期誓願者2名が、哲学の勉強のため、コンゴ民主共和国のコルウェシに住んでいる。

兄弟たちは、一つの小教区とファティマの聖母にささげられた小さな聖所記念堂を管理している。教区の活動に参加し、他修道会とも協力しているほか、非常に素朴で貧しい4つの村のために奉仕している。代表団はこれらの村を訪問し、地元の人々の歓迎とともに寛大なもてなし

を味わうことができた。日曜日に小教区の共同体とともに祝った聖母マリアにささげられたミサでは、アフリカの教会特有の喜びに満ちた共同体の信仰経験に、誰もが惹きつけられた。この訪問には、クラクフ管区の管区長の兄弟Krzysztof Bobakと、同管区の福音宣教事務局長の兄弟Nikodem Gdykも参加していた。二人とも、今後を着実な成長が見込まれるこの宣教拠点の将来的な展望を目撃することができた。直接的な小教区の司牧奉仕という次元を超えて、修道会全体およびアフリカ仏語圏諸管区協議会に開かれた姿勢は、この拠点の本質と、地域教会との関係を明らかにする重要な一歩である。

修道会の新たなフロンティア

アフリカにおける私たちの活動は、成長が著しい大きな管区や分管区でも、「会の定着 (implantatio Ordinis)」が始まったばかりの小さな拠点でも、拡大の一途にあり、新たな人材の派遣を含め、修道会全体の注目と配慮を必要としている。この地は、本会が現在活動し、今後活動を始める主要なフロンティアの一つである。だからこそ、アフリカは私たちに呼びかけ続け、私たちの返事を求めているのである。



Government of the Order



シオンのために私は黙らない

中東の戦争に関する

小さき兄弟会総長のメッセージ



WWW.OFM.ORG

シオンのために私は黙らない。

エルサレムのために

私は休まない。(イザヤ62・1)

しばらく前から、ある問いが私の頭から離れません。世界を傷つける悪を前にして、いつまで沈黙を続けていられるのでしょうか。

私は、キリスト信者として、小さき兄弟会員として、そして聖地で何世紀にもわたって活動が続いている修道会の総長として、いまこそ声を上げるべき時が来たと感じています。

この省察においては、一方で立場を表明することへの恐れや疑念も湧き起こってきますが、他方で、全世界に散らばる私の兄弟たちを代表して、とくに私たち小さき兄弟会が活動するイスラエルからパレスチナ、ヨルダン、レバノン、そしてシリアにいたるまでの中東地域をもう何年も揺るがしている状況について語らなければならないという福音的な義務を感じています。

私は、ここ数年を含めて、何度もこれらの国々を訪れてきました。死んでしまった子どものために泣く母親たち、家を捨てて逃げ出さざるを得なかった家族、そしてあらゆる困難にもかかわらず希望を抱き続ける人たちに会いました。とくにショックだ

ったのは、未来に目を向けることができず、しばしばただ逃げ出すことだけを願っている若者たちの状況です。彼らを責めることなどできるでしょうか。

最近のイスラエルやガザ、レバノン南部からベイルートにいたるまでの地域の情勢、そして伝統的にイエスが受難の前に身を潜めた聖書のエフライムとされているタイベで数日前に起きた事件は、忍耐の限度を超えています。

私は、何千、何万もの亡くなった子どもたち、年齢や境遇に関係なく襲いかかる暴力の犠牲者たち、一帯を焦土と化してしまう無差別な破壊、そして人々の土地と権利の収奪を前にして、預言者イザヤの言葉を繰り返さなければならぬと感じています。私は、そして私たちは、エルサレムを、また太古の昔からさまざまな民族の揺籃の地であったこの地域全体を愛していますから、もう黙っていることはできないのです。



総本部の予定



☑ 総長の兄弟Massimo Fusarelliは、7月4日、大天使聖ミカエル管区訪問のため、ウクライナを訪れる予定。

☑ 総理事会と総本部正義と平和・被造物の保全担当室は、7月4～12日、誓願10年未満の兄弟たちの幕屋の集会に参加するため、アシジを訪問予定

☑ 7月14～18日、総本部において、養成・学問国

際評議会を開催予定。同評議会には、養成・学問総事務局長の兄弟Darko Tepert、同副事務局長の兄弟Edson Augusto Nhaturve、本会のすべての諸管区協議会の養成・学問事務局長、養成・学問実行委員会の委員たちが参加する予定

☑ 7月13～24日、総本部においてテンポ・フォルテを開催予定。

聖フランシスコ・ソラノ、兄弟であり宣教師 列聖300周年 (1726-2026)における 総長の書簡



WWW.OFM.ORG



本会すべての小さき兄弟たち、
とりわけ、南米の使徒が通り、

祈り、涙を流し、福音の種を蒔いた、スペイン、ペルー、アルゼンチンの各管区、およびすべての土地の兄弟たちと共同体へ。

主が皆さんに平和を与えてくださいますように！

2026年12月27日、私たちは聖フランシスコ・ソラノの列聖から300年を迎えます。彼は1610年7月14日にリマで亡くなってから1世紀以上経った1726年、教皇ベネディクトゥス13世によって聖人に宣言されました。この記憶は、ペルー、アルゼンチン、

ボリビア、パラグアイ、チリの一部の教会では今なお鮮固で親しまれていますが、修道会の他の地域では、その記憶が薄れ、私たちの中でその生涯を語れる者はごくわずかであるように思われます。私はこの書簡を通じて、この記憶を再び私たちの手に取り戻す一助としたいと考えています。それは信心の義務としてではなく、私たちがアシジの聖フランシスコの帰天800周年を祝うまさにその年に届いた、一つの贈り物としてです。

書簡の全文を読む：

[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

総長、 「アフリカの聖母」宣教地区訪問 2026年6月15～21日、コンゴ共和国



WWW.OFM.ORG



小さき兄弟会総長の兄弟Massimo Fusarelliは、アフリカ担当の総理事の兄弟Siphelele Gwanisheniとともに、コンゴ共和国にあるフランシスカンアフリカの聖母宣教地区の教会法上の視察を行なった。

一行は、コンゴの首都にあるマヤ・マヤ国際空港に到着した際、同宣教地区長の兄弟Kevin As-sasa率いるコンゴのフランシスカン家族の代表た

ちから温かい歓迎を受けた。感謝の賛歌と歓迎のあいさつに彩られた出迎えは、今回の訪問に霊的な雰囲気を与えた。その後、二人の兄弟たちは、晩の祈りを含む盛大な歓迎式典に参加した。総長は、この祈りの間に、今回の訪問の意義について、次のように語った。「私は、一人の兄弟として、皆さんのところに来ました。皆さんの声に耳を傾け、ともに祈るためです。また、カリスマの本質を皆さんに思い出していただき、誠実に、そ

して恐れずに皆さんが直面している困難を特定する手助けをし、一つの変革期として、未来を、総会をともに見据えていくためです」。

6月20日土曜日に、ジリのクララ会修道院で行なわれた荘厳ミサでは、フランシスカン家族全体が一堂に会した。この機会に、兄弟Carlo Magno Iboda、兄弟Sivhy Lilyan Maloumbi、兄弟Dolsiga Surprise Nkounkouの3人の兄弟が有期誓願を更新した。兄弟Massimoは、説教のなかで、ブラザヴィルのフランシスカン家族に対して、小さき者であること、謙虚さ、アシジの聖フランシスコによって創立された本会の霊性への忠実といった基本的な価値をあらためて強調した。

総長は、6月21日日曜日に、感謝のミサを司式した。ジリの小教区の共同体がこのミサに参加した。このミサは、総長の教会法上の視察を締めくくるものとなった。総長は、閉会のメッセージの

なかで、次のような感動的な言葉を述べた。「フランシスコの蒔いた種は、いまま芽吹き続けます。それが実を結ぶかどうかは、皆さん次第です。感謝のうちに皆さんのもとを去ります。そして、私の祈りのなかで、アフリカの聖母宣教地区と皆さんのことを思い起こします。主が皆さんに平和を与えてくださいますように」。

今回の訪問は、コンゴ共和国におけるフランシスカンの宣教の未来を見据えた、兄弟的な同伴と識別のダイナミズムの一環である。この数日間は、すべての兄弟たち、そしてジリのフランシスカン共同体およびキリスト教共同体全体にとって、交わりと喜び、兄弟的な出会いの充実した時間となった。アフリカの聖母宣教地区は、8月に予定されている次回総会の準備と開催を聖霊に委ねている。

兄弟マッシモの視点（2026年6月） 教皇がアルゴリズムについて語ったとき



WWW.OFM.ORG



正直に言って、私はとても驚きました。5月25日に発表された教皇レオ14世の最初の回勅『マニフィカ・フマニタス (Magnifica humanitas)』を待ちわびてはいましたが、私は回勅に何を期待すべきか、またなぜとくに人工知能を取り上げたのか、初めはよく分かっていませんでした。しかし、その勇気ある明快な文章を読み進めていくうちに、レオ14世が単にAIだけに限定されない展望を切り開くとともに、技術を悪魔視することなければ、無邪気に称賛するのでもないことが分かりました。教皇は、技術が中立ではないことを指摘しています。なぜなら、技術にはそれを考案し、資金を提供し、利用する人々の顔が反映されているからです。そして、「AI

を『武装解除』し、再び人間を中心に据える」という招きを投げかけ、私は、この言葉に感銘を受けました。

しかし、最大の驚きはその後に訪れました。私は、人々の反応を追ってみました。神学者や司牧者だけでなく、とりわけ多くの信徒——研究者、起業家、テクノロジー界の主役、そして信者でない人たちも——が、この文章と向き合いました。回勅が発表されたとき、まさにそうした人たちの何人かが、教皇の近くに座っていました。この光景は、多くのことを物語っています。福音は、真の問いに触れたとき、私たちの境界をはるかに超えたところでも、耳を傾けてもらえるのです。

産業革命に直面したレオ13世のように、レオ14世は、『レールム・ノヴァールム』から135年が経ったいま、教会を新たな転換の岐路に導いています。それは、単に技術だけの問題ではありません。重要なのは、労働の意味、人間関係の特性、そして人間の尊厳なのです。教皇自身も書いている

ように、私たちの目の前には、新たなバベルの塔を築こうとするのか、それとも、神と人間がともに住まう都を築くのかという選択があります。勝利を収めつつあるように思われる、少数者の手で操られる技術主義的パラダイムに対する批判を続け、総合的な人類の発展のために共通善を追求していくという選択肢があります。

そこで、私は自問しました。これらのすべては、21世紀を生きる私たちフランシスカン員に、どのようなかたちで関係してくるのでしょうか。私たちはすでに、AIやそれがもたらす結果を、他人事として考えることができません。私たちはもう、AIにどっぷり浸かっています。執筆や翻訳、研究、コミュニケーションのためにAIを活用しています。しかし、私たちの機械が賢くなっていく一方で、自分自身や他者に対する私たちの傾聴は、同じように進化しているのでしょうか。そして、現実や、人間らしさに対する私たちのまなざしが、本当に深まっていると言えるのでしょうか。

私はいま、2027年の総集会のテーマの一つとしてAIを選んだことの意味を、これまで以上に深く理解しています。私たちは、恐怖に囚われて、あるいは魅了されて、その入り口に立ち尽くすつもりはありません。私たちは、福音を手にも、この新たなフロンティアに踏み込んでいきたいのです。こうして、AIは人間性を大切にしていけるのか、あるいは教皇レオが断固として非難している

戦争における利用をはじめ、人間性を危険にさらしてしまうのかを問うていきましょう。フランシスコは、自分の時代を恐れませんでした。フランシスコは、越えられないと思われていた境界を乗り越え、武器をもたずに他者に会いに行きました。新しいものをただ拒むのではなく、それらを善、交わり、平和へと導くために、今日の私たちにも、同じような勇気が求められています。

私の目には、あのバチカンのホールでの情景が浮かびます。そこでは、デジタル界や科学界からの多くの人たちが、座って耳を傾けていました。この人たちが回勅から問いを投げかけられることを受け入れるのなら、私たちにもそれができないはずはありません。目を見開き、自由な心で信者としてこの時代を生きていくこと、それこそが、フランシスコ年が私たちに求めている大胆さなのです。



Animation of the Order

ジャカルタで第6回アジア・オセアニア地域の JPIC会合が開幕

聖フランシスコにとって、正義と平和・被造物の保全は
プログラムではなく、福音を生きる生活様式そのものです



WWW.OFM.ORG

「聖フランシスコにとって、正義と平和・被造物の保全は単なるプログラムではなく、生活様式そのものです」

ジャカルタで、第6回アジア・オセアニア地域正義と平和・被造物の保全大陸会合が正式に開幕した。アジア・オセアニア全域のフランシスカン管区・分管区から、正義と平和・被造物の保全のアニメーターたちが参加した。会合は、6月22～27日、「人々に配慮し、被造物を保全していく」というテーマのもと、開催されている。

この会合には、人間の尊厳、平和の構築、私たちの共通の家の保全といった課題に対処していくための考察、養成、協力関係を強化することを目的として、アジア・オセアニア両大陸にある12以上のフランシスカンの管区・分管区等から、小さき兄弟会員たちが集まった。

開催初日は、インドネシアの大天使聖ミカエル管区の管区長の兄弟Agustinus Lorensius Nggameが司式するミサで始まった。兄弟Agustinusは、説教のなかで、正義と平和・被造物の保全は単なるプログラムや活動ではなく、神との出会いから生まれる生活様式そのものであることを強調した。参加者たちに、「聖フランシスコにとって、正義と平和・被造物の保全は単なるプログラムではなく、生活様式そのものです」と語った。さら

に兄弟Agustinusは、開催地である同管区を代表して、開会式で公式の歓迎のあいさつも述べた。

「さまざまな国、文化、言語を背景とする兄弟たちの集まりは、国境を越えた兄弟性のしるしです」と述べ、この数日間が、経験やプロジェクトを分かち合う機会となるだけでなく、フランシスカンのアイデンティティを深め、正義と平和・被造物の保全に向けた共通の責務を強化する機会にもなるという期待を表明した。



その後、参加者たちは、本会副総長の兄弟Ignacio Ceja (OFM) のメッセージを聞いた。副総長は、正義と平和・被造物の保全の推進が二次的な活動ではなく、フランシスカンの福音的生活の本質的な次元であることをあらためて強調した。

副総長は、その話のなかで、この会合がフランシスカン家族にとってきわめて意義深い時期に開かれていることを強調した。アシジの聖フランシスコの帰天800周年を記念する年だからである。そして、アシジの貧者のあかしから着想を得ながら、アジアやオセアニアの人々が直面している課題に対処していくために、観想の霊性、貧しい人たちとの連帯、生活の素朴さ、協力関係を育んでいくよう参加者たちを励ました。

開会のセッションでは、総本部正義と平和・被造物の保全担当室長の兄弟Daniel R. Blanco (OFM) が、本会合の目的を説明するとともに、2008年

以降開催された大陸会合の歴史的な展望を紹介した。兄弟Danielは、発表のなかで、ここ20年近くにわたって当地域の正義と平和・被造物の保全のアニメーターたちが答えを模索してきた、「正義と平和と被造物の課題に直面したとき、アジア・オセアニア地域においてフランシスカン員であるということにはどのような意味があるのだろうか」という共通の問いを強調した。

午後のセッションでは、総本部正義と平和・被造物の保全担当室副室長の兄弟Taucen Gir-sang (OFM) が、正義と平和・被造物の保全の分野において本会が歩んできた道のりを要約して紹介した。また、ペトロポリス（2022年）およびアシジ（2025年）で開催された正義と平和・被造物の保全国際評議会の宣言に触れながら、参加者たちに対し、大陸的な協力を強化し、弱い立場におかれている人たちや被造物の保全に向けたフランシスカンの責務を新たにしよう招いた。その発表は、本会の世界的な経験と、アジア・オセアニア地域が今日直面している具体的な課題を結ぶ架け橋となるものであった。

初日はさらに、アジア・オセアニア地域のさまざまなフランシスカンの管区・分管区等による報告発表が行なわれた。これらの報告は、当地域全体における正義と平和・被造物の保全のための奉仕職や取り組みの豊かさや多様性を浮き彫りにした。参加者たちは、パプアにおける先住民族の権利の擁護や避難民コミュニティへの同伴から、ミャンマー、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、スリランカ、インド、日本、ヴェトナム、韓国、台湾、香港、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、東ティモール、インドネシアといった国々における諸宗教対話の推進、移民支援、平和の構築、環境保全の取り組みにいたるまで、地域コミュニティの現実に深く根ざしたフラ

ンシスカンの活動を示すさまざまな経験を分かち合った。

発表された経験のなかでも、とくに注目を浴びたのは、東ティモールとインドネシアで展開されている環境司牧の取り組みである。これらの地域では、フランシスカンの共同体が、有機農業、持続可能な畜産、環境教育といったプログラムを通して、農村コミュニティに同伴している。これらの取り組みは、地域経済を強化し、化学肥料への依存度を減らし、より調和のとれた被造物との関係を促進していくことを目標としており、環境保全と弱い立場におかれているコミュニティの人間的な発展を統合している。

また、報告からは、この地域全体に共通する一連の課題が明らかになった。人権や先住民族の権利の擁護、移民や難民への同伴、武力紛争の及ぼす影響、採取経済によって引き起こされる環境破壊、気候変動の影響などが、繰り返し指摘される懸念事項として浮かび上がってきた。それと同時に、参加者たちは、市民社会のさまざまな組織、地域コミュニティ、他の宗教的な伝統、そして社会の各分野との連携から生まれる希望のしるしも分かち合った。

第6回アジア・オセアニア地域正義と平和・被造物の保全大陸会合は、今後数年間の同地域における正義と平和・被造物の保全のアニメーションの主要な課題、責務、指針の概要を示す最終文書を採用して閉会する予定である。

参加者たちは、貧困、移民、社会的紛争からエコロジー危機にいたるまで、大陸がますます複雑な課題に直面するなか、希望、和解、被造物の保全のしるしとなるというフランシスカンの責務を新たにすることを模索している。



2026年アジア・インターフランシスカン 宣教コースが開講、セブ 希望の巡礼者として、フランシスカンの宣教者たちが集まる



WWW.OFM.ORG



2026年フランシスカン三派合同アジア宣教コースが、フィリピンのセブ市で正式に開講した。第一会の三派に属するフランシスカンの宣教者たちが集まり、養成、兄弟性、宣教の刷新の歩みをとみにしている。このコースのテーマは、聖年の精神と、これに続く聖フランシスコの帰天800周年の祝いから着想を得て、「希望の巡礼者としてアジアに派遣される：宣教と兄弟性のうちにフランシスコ年を生きる」となっている。この取り組みは、フランシスカンの宣教的なアイデンティティを深め、アジアの人々に奉仕する小さき兄弟たちの福音的な責務を強化することを目的としている。

この会合は、2026年5月30～7月26日、セブ市ラフグにあるレデンプトール会の聖家族黙想センターで開催されている。18名の兄弟たちが参加している。小さき兄弟会からは5名、カプチン会からは5名、コンベンツアル聖フランシスカンからは5名で、各派からそれぞれ1名ずつコーディネーターが同伴する。プログラムの全期間中、グループは小さき兄弟会の宣教総アニメーターの兄弟Dennis Tayo (OFM) の同伴を受ける。

開会式には、3名の福音宣教総事務局長たちが出席した。そのなかには、コース開講の典礼の後に行なわれた聖三位一体の祝日のミサを司式した兄弟Francisco Gómez Vargas (OFM) も含まれる。

参加者たちは、「フランシスカン三派合同アジア宣教コースの統合のダイナミズム」と題された第1モジュールにおいて、各自の個人的な歩みや召命について分かち合い、プログラムの目的や期待について省察し、三派の総事務局長やアニメーターたちの発表を通して、アジアにおける宣教の現実やフランシスカンの活動について深めることができた。

8週間に及ぶ2026年フランシスカン三派合同アジア宣教コースは、3つの大きな目標を中心に展開される。アジアの人間学的、社会的、文化的、教会的な現実を理解すること、霊的、司牧的、知的、多文化的な成長を促進する総合的な宣教養成を提供すること、最後に、フランシスカン三派間の会派を超えた協力と兄弟性を強化することである。

参加者たちは、勉強、祈り、省察、文化的な交流を通して、アジアの現実に対する知識を深め、それぞれのフランシスカン的な宣教召命を育み、宣教の奉仕における兄弟的な協力を強めていくよう招かれている。

2026年フランシスカン三派合同アジア宣教コースは、今後数週間にわたって続く。その間、参加者たちは、新たな熱意、兄弟的な精神、福音的なあかしとともに、アジアの人々や文化に奉仕する準備を進めながら、希望の巡礼者としてともに歩み続けていく。

奉仕職の任期終了にあたり、兄弟Bill Shortへの感謝 クラッキの聖ボナベントゥラ大学出版部



WWW.OFM.ORG

6月9日火曜日、ローマの聖イシドロ共同体は、クラッキの聖ボナベントゥラ大学の院長としての奉仕職の任期を終えた兄弟Bill Shortを温かく送り出した。兄弟Billは9年間にわたり同学院を率い、その専門知識と寛大さを実らせてきたが、このたび米国へと帰国する。

修道院長である兄弟Michéal MacCraithは、心に響くスピーチを行い、その中で兄弟Billの人間的・知的な特徴を際立たせた。この機会に、クラッキの新しい院長として、ポンティフィカル・大学・アントニオヌムのフランシスカン聖人伝記学の正教授である兄弟Marco Guidaが歓迎され、今後の活動への祝福が述べられた。兄弟Marcoと、クラッキの会長であるDaniele Solvi教授は、兄弟Billに対し、これまでの貴重な奉仕に対する同学院の謝意を表す賞状を手渡した。



会場には、総長に代わって挨拶と感謝を伝えた副総長の兄弟Ignacio Ceja Jiménezをはじめ、総理事の兄弟Jimmy Zammit、養成・学問総事務局長の兄弟Darko Tepert、総本部の財務担当である兄弟Joel Esplana Sulseが出席した。

総本部の兄弟たちとともに、同学院の信徒の協力者たちもこの祝いと感謝のひとつに参加した。

兄弟Billに改めて感謝を捧げるとともに、兄弟Marcoの今後の活動の成功を祈ります！

クラッキの兄弟編集者の活動や出版物については、ウェブサイトをご覧ください。

www.quaracchi.org

News from the Entities



エジプトの聖家族管区 アンダー10の会合 2026年6月15～16日、ルクソール



WWW.OFM.ORG

2026年6月15日と16日、ルクソールにおいて、エジプトの聖家族管区の兄弟たちのための「アンダー10会議」が開催された。これは、アンダー10の責任者である兄弟Milad Goudaと、養成・学問事務局長である兄弟Milad Shehataによって組織された。この会合には、総本部宣教・福音宣教事務局長である兄弟Francisco Gómez Vargas (OFM) も参加し、フランシスカンのアイデンティティと修道生活の召命の刷新というテーマが扱われた。

宣教、刷新、および霊的成長へと導く「召命の神秘」と、単なる安全、安定、および維持の追求に陥るリスクのある「生存の神秘」との違いについて深く掘り下げられた。実際、聖フランシスコは、制度を保護したりその継続性を保証したりすることに限定されることなく、何よりもまず福音への忠実を選んだのである。参加者たちは、生存への過度な懸念が、保守主義、変化への恐れ、そして宣教の勢いの喪失を生み出すリスクにつ

いて省察した。

この会議は兄弟たちに対し、自らの召命の原点にある動機を再検討し、それらが現在においてどれほど生き生きと保たれているかを確認するよう促した。さらに、霊的な刷新を妨げる可能性のある、安全、役割、地位、あるいは伝統への執着の形態に関する問いが投げかけられた。

デジタル世界、人工知能、消



費文化といった現代の課題と、それらが修道生活に与える影響について、多くの時間が割かれた。兄弟たちはまた、本物のフランシスカンの喜びの持続性や、それが単なる行政的な事務作業に取って代わられるリスクについても自問した。

最後に、本会議は修道養成の

刷新と、今日において福音を生きするという聖フランシスコの勇気の回復を奨励した。修道生活は福音への絶え間ない立ち戻りを通じて刷新されること、そして生きた共同体は、単なる維持を通じてではなく、意味、宣教、および証しによって成長するものであるということが再確認された。

会議の途中で、兄弟Franciscoは総本部から発布された宣教と福音宣教に関する新しい文書、すなわち福音宣教綱領『全世界に行きなさい (Ite In Mundum)』を提示し、現代世界におけるフランシスカンの生活と宣教のコミットメントのための主要な方向性と司牧の展望を説明した。

ポーランドにおける複数管区の合同養成

2026年6月22日、クラクフ・ブロノヴィツェ



WWW.OFM.ORG

2026年6月22日、クラクフ・ブロノヴィツェにある「有期誓願者合同の家」において、小さな兄弟会のポーランドの5つの管区の管区長たちと、初期養成に携わる養成担当者たちの会議が開催された。

この会議には以下の面々が参加した：ポズナニの聖フランシスコ管区長の兄弟Leonard Bielecki (OFM)、無原罪の聖母管区長の兄弟Egidiusz Włodarczyk (OFM)、クラクフの天使の聖母管区長の兄弟Krzysztof Bobak (OFM)、カトヴィツェの聖母被昇天管区長であり北スラブ諸管区協議会 (SLAN) の会長を務める兄弟Witosław Sztyk (OFM)、そしてヴロツワフの聖ヘドウィグ

管区長の兄弟Alard Maliszewski (OFM)

会合は聖体拝領の挙行で始まった。その後、参加者たちは初期養成における現在の課題、養成の家の間の協力をはじめ、若い兄弟たちをフランシスカンの生活へと準備させる奉仕のための管区合同構造のさらなる発展について省察した。

作業の中で、SLANの養成・学問事務局長である兄弟Sergiusz Baldyga (OFM) は、自身の活動に関する報告書を提示し、初期養成の様々な段階の規約に関する作業の状況や、現在策定中の新しい「フランシスカン養成規範 (RFF)」について説明した。彼はまた、2027年の「聖ジ

ェームズの聖年」を見据えた、兄弟たちの巡礼や「サンティアゴの道」への参加を通じた福音宣教プロジェクトを含む、将来に向けた新しい養成の取り組みを提案した。さらに、盛期誓願に向けて準備をしている兄弟たちのための次期プロバシオン（試考期）についても議論がなされた。

修道会の総集会事務局長としての立場から、兄弟Sergiuszは、2027年にベトナムのヌイ・ツイ聖堂で開催予定の総集会に向けた『インストルメンタム・ラボリス（討議要綱）』の策定プロセスと方法論についても提示した。

プログラムの中で意義深い瞬



間となったのは、管区長たちと養成チーム、および有期誓願の兄弟たちとの面談であった。対

話では、クラクフ・ブロノヴィツェの有期誓願者合同の家の活動初年度の経験や、管区間のこ

の形式の協力をさらに発展させる展望について話し合われた。

LIFE in the Order



帰天された 兄弟たち

- † 6月23日：兄弟Paul Gallagher、
グアダルーペの聖母管区（アメリカ合衆国）
- † 6月17日：兄弟Stephen Barnufsky、
グアダルーペの聖母管区（アメリカ合衆国）
- † 6月17日：兄弟Kenneth Rosswog、
グアダルーペの聖母管区（アメリカ合衆国）
- † 6月14日：兄弟Eliseu (Antonius Johannes
Henricus) Tijdink、
聖十字架管区（ブラジル）
- † 6月13日：兄弟Antonio (Antonio Otávio)
Ferreira、無原罪の御宿り管区（ブラジル）
- † 6月2日：兄弟Francisco Anzaldo García、
聖ペトロと聖パウロ管区（メキシコ）
- † 5月5日：兄弟Carlos (Jorge) Ríos Picazo、
聖ペトロと聖パウロ管区（メキシコ）

総事務局からの情報



マダガスカルの在世フランシスカン（OFS）全国選挙総会 2026年6月19～21日、マジュンガ



WWW.OFM.ORG

福者ルシアン・ボトヴァソアの保護のもと、マダガスカルのOFS全国選挙総会が、首都アンタナナリボから570キロ以上離れた都市マジュンガにおいて、2026年6月19～21日開催された。



兄弟的雰囲気の中、出席した52名の総会会員は、地域責任者を含む11名のメンバーからなる新しい全国理事を選出した。これまで財務担当を務めていた Pascal Jean Elson Andrianomenjanahary氏が、初の3年の任期としてマダガスカルの全国会長に選出された。

会会は、国際OFS理事会（CIOFS）会長の顧問である Adolph Atsu Assagba氏が議長を務め、霊的補佐者会（CAS）を代表して、マダガスカル・モーリシャス無原罪の聖母管区長である兄弟 Jean Pierre Rasolonjanahary, OFMが補佐した。

マジュンガの大聖堂において、同教区の司教総代理が感謝と新しい理事会の任命のためのミサを司式し、地域のフランシスカン家族全体が参列した。

Franciscan Bookmark



Alexandri de Hales
Quaestiones
Disputatae de
Angelis

A cura di
Fr. Juri Leoni, OFM
Fratr Editori di Quaracchi

quaracchi@ofm.org



Itinerarium

Ano LXXII, n. 235 –
janeiro - junho 2026
Editorial Franciscana
da Província Portuguesa
da Ordem Franciscana

Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



[@ofmorg](https://www.youtube.com/@ofmorg)



[@fratrumminorum](https://www.instagram.com/@fratrumminorum)



[@ofm.org](https://www.facebook.com/@ofm.org)



[flickr](https://www.flickr.com/photos/ofm/)

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br. Byron A. Chamann Anléu OFM
Translators: Br. John Luke OFM, Br. Arthur Andersen OFM

OFM
Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved